

ご存じですか！文化財

76

「説経節 初代若松辰太夫供養塔」

市指定史跡 平成4年3月16日指定



問合せ
生涯学習課
(☎0480・62・1223)



所在地 外田ヶ谷796

説経節とは、主に江戸から大正時代に流行した三味線や人形を使った語り芸の一種で、代表作に「山椒大夫」・「小栗判官」などがあります。明治のはじめ、外田ヶ谷にその説経節の名人とうたわれた人物がいました。初代若松辰太夫こと漆原四郎次です。

四郎次は、文政6(1823)年、外田ヶ谷に生まれました。板橋の五代目薩摩若太夫を師匠として、はじめ「薩摩辰太夫」と称しましたが、後に奥州白河(現・福島県白河市)での興業を期に、名を若松に改めたということです。

その芸風は声の力があり、

重忠をやればそこに本物の重忠が現れるように思われ、また太った体でありながら、清姫を語ると優しい美女に見えたといわれています。その芸に惹かれた浪花節の創始者である浪花亭駒吉は、外田ヶ谷に長く寄留し、浪花節を生み出したといわれています。晩年は日暮龍卜と名乗り、多くの子弟を擁しました。菩提寺の宝性寺には、一門の供養塔である三基の石塔があります。中央が四郎次夫妻のもので、台石には八十数人もの門人が記されています。

また、右は、四郎次の分家で漆原平之丞夫妻、左は初代若松辰和太夫こと網野国蔵夫妻のもの。初代若松辰太夫派の隆盛ぶりがしのべられます。

